

2026年4月14日
株式会社サティスファクトリー

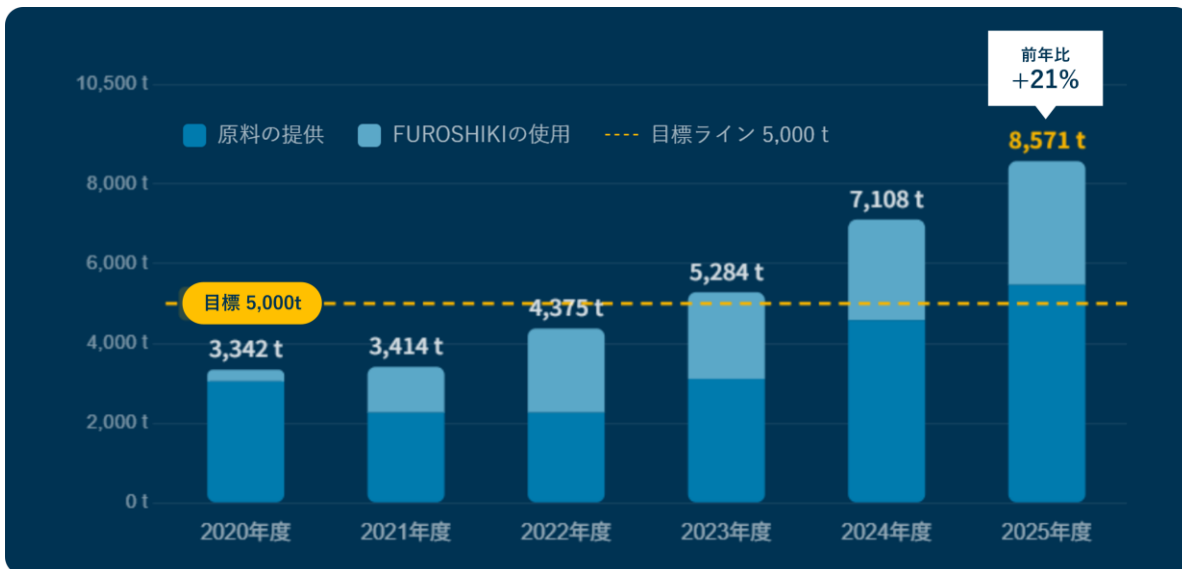
【過去最高】8,571t の CO2 排出削減を記録 「CO2 10000t 削減プロジェクト」へ規模拡大

～市況変動に伴う調達リスクが顕在化し、再資源化プロダクトによる安定供給に焦点～

環境社会創造企業の株式会社サティスファクトリー（東京都中央区／小松 武司）は、事業活動における CO2 排出削減を協創する「CO2 5000t 削減プロジェクト」において、2025 年度の年間 CO2 削減量が過去最高となる 8,571t（速報値）を記録したことをお知らせします。本プロジェクトは、3 年連続で目標の 5,000t を上回る成果を収めました。これを受け、2026 年度よりプロジェクトの規模を拡大。年間 10,000t 規模のインパクト創出を旗印とした「CO2 10000t 削減プロジェクト」へとフェーズを移行します。

1. 実績 | 排出削減量は過去最高の 8,571t へ

2025 年度は、企業の環境対応が「コスト」から「戦略」へと変化した年でした。その結果、削減量は過去最高の 8,571t（速報値）を記録。**3 年連続で 5,000t を超える削減を継続**しており、本プロジェクトが産業界のカーボンニュートラルに向けて確かな基盤となっていることを証明しました。



グラフ：CO2 5000t 削減プロジェクトによる CO2 排出削減量の推移（2025 年度は速報値）

作成：サティスファクトリー

News Release

2. 要因 | 市況変化と「調達リスク」の顕在化

現在、中東情勢を背景とした原油価格の激しい変動により、ナフサやポリエチレン（PE）といった**石油由来原料の価格高騰**が続いています。実際にポリエチレン製品メーカー各社では、**原材料費や物流コストの上昇**を受け、30%以上の値上げが発表されるなど、従来の調達モデルは大きなリスクに直面しています。

3. 戦略的選択肢を考える契機としての「FUROSHIKI」

こうした不安定な市況下において、99%再生材ごみ袋「FUROSHIKI」は、**環境価値とサプライチェーンの強靱化を両立**する、企業の事業継続計画に不可欠な選択肢となっています。

▼企業に提示する2つの新たな解

脱炭素の実行：低炭素な再生材活用による直接的な環境貢献。

調達の安定化：石油市況の影響を抑えた価格設計と、独自の回収網による安定供給体制。

4. 展開 | プロジェクト規模を10,000tへ拡大

これまでの実績をふまえ、2026年度はプロジェクトの規模を大幅にスケールアップします。プロジェクト名称は「CO2 10000t削減プロジェクト」とし、**年間10,000t規模の削減を定着させる「新たな環境インフラ」としての地位を確立**します。発足当初の約2倍となる環境負荷低減を掲げ、プロジェクト参加企業の皆さまと共に、循環型経済への移行を一層加速させてまいります。

▼プロジェクト公式サイト

<https://www.sfinter.com/co2-10000t/>

参加企業募集中

- 資源を提供したい法人様
- 再資源化製品を利用したい法人様



5. 企業概要

商号： 株式会社サティスファクトリー

代表： 代表取締役 小松 武司

本社： 東京都中央区八丁堀三丁目12番8号 HF 八丁堀ビルディング 6F

設立： 平成8年11月13日

事業： 廃棄物マネジメント事業、環境コンサルティング事業、再資源化プロダクト事業

報道機関からのお問い合わせ先：

株式会社サティスファクトリー 営業戦略企画室 consulting@sfinter.com